出　張　報　告　書

令和 6 年 8 月 6 日

会派名　　公明クラブ

会長　　永本 浩子　　様

出張者氏名　　永本 浩子　　澤谷 淳子

下記のとおり出張したので報告します。

記

出張期間	令和 6 年 6 月 27 日(月) ・ 令和 6 年 6 月 29 日(水)　〔 2 日間〕						
出張概要	①	月日	3月27日	市町村名	弟子屈町	会場	川湯観光ホテル
		目的	交流会 参加				
		テーマ	北前船フォーラムinひがし北海道地域連携研究所 釧網線エリア交流会				
	②	月日	3月29日	市町村名	釧路市	会場	観光国際交流センター
		目的	フォーラム参加				
		テーマ	北前船寄港地フォーラム				
	③	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
	④	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
所見	別紙のとおり						
備考							

※所見については、別紙(任意様式)で作成して下さい。

第３４回北前船寄港地フォーラム in ひがし北海道くしろ　参加報告

公明クラブ　　永本浩子　澤谷淳子

かつて物流の重要なネットワークとして栄えていた「北前船」！その寄港地を結び、点から面へ、更には回廊へと発展させ、寄港地の連携、地域間交流によって活性化を図ろう、という石川好氏の「北前船コリドール構想」に賛同した多くの自治体や企業などの支援により、2007 年から全国各地で開催されてきた「北前船寄港地フォーラム」。本年は 6 月 29 日釧路市で開催されることとなり、それに先立ち開催された「釧網線エリア交流会」とともに参加しました。

6 月 27 日(木)18 時～川湯観光ホテルで開催された「釧網線エリア交流会」には、前観光庁長官をはじめ ANA 総合研究所、日本航空(株)、日本旅行(株)などの観光関係のみならず芸能プロダクションや日本たばこ産業(株)、木下工務店、前田道路(株)、北海道放送、備前市長、近隣首長、自治体関係者などなど、実に多士済々な方々にお越しいただき、大変貴重な交流ができました。

今回は、全国各地から根室中標津空港、帯広空港、女満別空港の 3 コースに分かれて北海道に入っていただき、女満別コースは空港から会場の川湯観光ホテルまで水谷市長がガイド役となってお客様を案内してくださり、そのガイドが大変好評で網走の観光や文化を大いにアピールすることができました。また、網走からも観光・文化関係の皆様に多数ご出席いただき、感謝に堪えません。

6月29日(土)13時～釧路市観光交流センターで開催されたフォーラム本番には、コネクトリップの道山マミ代表理事とともに参加。パネルディスカッション「アドベンチャートラベルの聖地―JR(ジモトレール)を利用した格別な体験へのご招待」のコーナーで、道山さんが登壇。四季折々のオホーツクの豊かな自然の映像とコネクトリップが取り組んでいる体験型観光の内容をガイドの皆さんの声を交えてわかりやすくまとめた動画がとても素晴らしく、場内から大きな拍手をいただきました。また、北前船の研究をしている小樽商科大学の高野宏康先生の講演では、2月に網走にいらした時にご案内した又十藤野に関する資料をたくさん使って発表してくださり、嬉しい限りでした。

北前船寄港地フォーラムを推進する「一般社団法人北前船交流拡大機構」とは、数年前から関わらせていただき、今回の釧路大会に向けても昨年から準備をしてきただけに大成功に終えることができ、感謝でいっぱいです。

これからも網走の観光・文化の活性化と地域間交流の推進にお役に立てるよう取り組んでまいります。

水谷市長はじめご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

出　張　報　告　書

令和　6　年　11　月　15　日

会派名　　公明クラブ

会長　　永本　浩子　　様

出張者氏名　　永本　浩子　　澤谷　淳子

下記のとおり出張したので報告します。

記

出張期間	令和　6　年　9　月　4　日（月）～令和　　年　　月　　日（水）　〔 1　日間〕						
出張概要	①	月日	9月4日	市町村名	網走市	会場	網走湖荘
		目的	網走観光主要施設　事前視察 案内				
		テーマ	10/26開催予定 北前船研究会 網走観光主要施設 事前視察と意見交換会				
	②	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
	③	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
所見	別紙のとおり						
備考							

※所見については、別紙（任意様式）で作成して下さい。

「北前船寄港地フォーラム」を受けた観光ツアーの網走市内下見の案内報告

公明クラブ　　永本浩子　澤谷淳子

6月２９日に釧路市で開催された「第３４回北前船寄港地フォーラム」を受け、北前船交流拡大機構の浜名正勝参与より、実際に釧網線エリアの寄港地をめぐる旅「ネイティブスピーカーが伝える北海道ストーリー」が観光庁のインバウンド誘客に向けた観光コンテンツ造成支援事業に採択され、１０月に中国人１５名のツアーが決まった、との連絡を頂き、更にその下見の案内をしてほしい、との依頼を受けた。

９月４日、浜名参与とツアーの責任者である日中共同発展推進協会会長で元札幌市副市長の中田博幸氏、日本旅行添乗員の王さんを女満別空港にお迎えし、「オホーツク流氷館」にご案内！館内の見学とともに展望台からのオホーツクブルーの空に知床連山がくっきりと浮かび上がった絶景に皆さま大感動。
続いて、国内有数の展示物を誇る「北方民族博物館」では新谷理事長、佐々木課長の出迎えを受け、学芸員の方の解説を聞きながら９００点を超える貴重な資料や展示物をくまなく視察。浜名参与の博識と北方民族に関する造詣の深さに驚かされた。
「流氷硝子館」では軍司昇工房長より、廃棄された蛍光灯をリサイクルして様々なガラス工芸品を作製している様子を詳しく説明して頂いた。
最後に、網走市の体験型観光を牽引している「コネクトリップ」を訪問し、北前船寄港地フォーラムでも登壇し発表して頂いた道山マミ代表理事と懇談。１０月のツアーでは屋外でのバーベキューで皆さまをお迎えし日中交流の場にしたい、など様々な企画に話が弾んだ。

宿泊先の網走湖荘では夕食を交えながら、今回の採択事業の実施主体である北海道訪日観光案内人養成実行委員会の活動の様子や今後のインバウンドの動向、札幌市内の中国人の方々との交流の様子など貴重なお話を伺うことが出来て大変勉強になった。

翌９月５日は定例会のため案内が出来ないので、事前に「網走郷土博物館」と「モヨロ貝塚」の案内を米村衛館長に依頼。

１０月のツアー本番は、女満別空港から網走―弟子屈―釧路に抜ける三泊四日のコースとなる予定。お越しいただく中国の皆さまに喜んで頂き、ご満足頂けるツアーとなり、今後の網走への観光誘客につながることを期待したい。

【行程】
1日目　9月4日　女満別空港→オホーツク流氷館→北方民族博物館→流氷硝子館
→コネクトリップ→網走湖荘（意見交換）

2日目　9月5日　網走郷土博物館→モヨロ貝塚館
（案内同行なし）

出　張　報　告　書

令和 7 年 3 月 31 日

会派名　　公明クラブ

会長　　永本 浩子　　様

出張者氏名　　永本 浩子　　澤谷 淳子

下記のとおり出張したので報告します。

記

出張期間	令和 7 年 3 月 24 日(月)～令和 7 年 3 月 26 日(水)　〔 3 日間〕						
出張概要	①	月日	3月24日	市町村名	千歳市	会場	道央廃棄物処理組合焼却施設
		目的	焼却施設　視察				
		テーマ	道央廃棄物処理組合焼却施設の運用について				
	②	月日	3月25日	市町村名	浜田市	会場	浜田市役所
		目的	移動期日前投票所　視察				
		テーマ	移動期日前投票所の取組について				
	③	月日	3月25日	市町村名	浜田市	会場	三宮神社
		目的	石見神楽　視察				
		テーマ	伝統芸能　石見神楽の若者への継承について				
	④	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
所見	別紙のとおり						
備考							

※所見については、別紙(任意様式)で作成して下さい。

＜研政会・希政会・公明クラブ合同視察報告書＞

公明クラブ　　永本　浩子
澤谷　淳子

1　道央廃棄物処理組合焼却施設の運用について

日　時　：　令和7年3月２４日（月）　１３；３０～１５；００

視察先　：　道央廃棄物処理組合焼却施設

【視察内容】

当市を含む１市５町で検討されてきた広域での廃棄物中間処理施設が昨年１２月に白紙撤回となり、新たに候補地選定から検討がスタートしたことから、令和６年４月に供用開始された道内では最新の「道央廃棄物処理組合焼却施設」を視察した。

「道央廃棄物処理組合焼却施設」は２市４町（千歳市、北広島市、南幌町、由仁町、長沼町、栗山町）の広域ごみ処理施設として千歳市に新設された。組合地域全体としては、人口は１８７，２７４人で斜網地区の約２.５倍、面積は１，３０１．１０㎢で札幌市より少し広いくらい。

建設工事費は１２２億７，７２２万６，８０６円、施工管理業務は４，９６１万円、合計で１２３億２，６８３万６，８０６円。千歳市と長沼町に自衛隊の施設が多いため防衛省の防衛施設周辺民生安定施設整備事業補助金を活用！住民に対する自衛隊員の割合で補助額が決まるそうだが、対象事業の約1/2、４１億円の補助金が出たとのこと。

ランニングコストは、施設の運転管理から用役管理（設備消耗品・薬品・燃料等の調達）、補修までを業務範囲とする２０年間の長期包括的委託で、税込み１３０億５，４８０万円、１年あたり平均で約６億５，２００万円だが、施設内で発電した余剰電力を売電し、そのお金も委託費に充当することになっており、令和６年度は約１億４，０００万円の収入が見込まれている。

ちなみに、ごみの焼却によって発電できるかどうかは、ごみの量によって決まってくる。５０トン以下は発電不可、５０～８０トンでは自分のプラントを賄うくらい、８０トン以上だと売電ができる、とのこと。道央廃棄物処理組合焼却施設では１４９トンのゴミの量があり、国の買取を想定して売電収入は６，０００万円と見込んでいたが、国だけでなく民間からも買ってもらえたため想定を上回る１億４，０００万円になったとのことだった。残念ながら斜網地区のごみの量では発電はできない。しかし、メタンガス発酵を組み合わせた「メタンコンバインド」だと発電ができるため導入を検討してきたが、斜網地区のごみの量だと売電まではできず、施設の使用電力の４０％程度ということで、ランニングコスト等の費用対効果を考えると慎重になる必要がある、と考える。また、道央廃棄物処理組合では、焼却だけで十分発電できるためメタンコンバインドの導入は検討しなかった、とのこと。更に、新しいものには「失敗」というリスクが伴うため焼却炉も手堅くスタンダードなストーカ方式を選んだ！との話も胸に響いた。

また、プラント用水には水道水を使用しており、これは雨水などを使うと不純物などが機械に付着して不具合や機械の寿命を縮めるためで、施設内で

巡回させて、施設外には排出していない。蒸発した分を補充しながら巡回させている。

また、２市４町それぞれに分別の仕方が違っており、運び込まれるゴミの内容も違う、と聞いて「分別が違っていてもいいんだ！」と驚いた。
焼却灰は持ち込まれたゴミの量に換算して専用車両で各自治体に運んでいる。

今後の課題としては、一つは「人口減少や分別によるゴミの減少」―ゴミの量が減ると自然しなくなる。製品プラスチックの分別が進むことによって熱量が不足し、重油などの助燃が必要になりコストが上昇する。発電量が減少して維持管理費に充てている売電収入が減少する。
もう一つは、反対に「人口増加によるゴミの量が増加」―実は、施設の設計段階では「エスコンフィールド」や「ラピダス」は想定しておらず、しかも７年後のゴミ量の減少に合わせて設計されているため、ラピダス関連で人口が増加したり、エスコンフィールドなどでゴミの量が増えると焼却能力が間に合わない恐れがある。

このほか、施設を見学に訪れた子どもたちなどに楽しみながらゴミの分別を知ってもらうためにデジタル画面で行う「ゴミの分別クイズ」なども設置されており参考になった。

施設内も丁寧に案内して頂き、大変勉強になった。

② 移動期日前投票所の取り組みについて

日　時　：　令和7年3月25日（火）　１４；００～１５；３０

視察先　：　島根県浜田市役所

【視察内容】

浜田市では平成１７年に５市町村が合併し、広大な中山間地域が増えた一方で過疎化が進み、人口の減少や立会人の確保が難しいなどの理由から、合併当初は１０５か所あった投票所を平成２２年には７８か所に、平成２８年には７０か所に統廃合し、令和３年には更に６８か所になった。しかしながら統廃合によって特に中山間地域と呼ばれるところは統合先の投票所までの距離が最大で９．３㎞、最小でも５．８㎞とそれまでの２倍近くかかるようになり「投票機会の確保」という観点から車を使った「移動期日前投票所」が平成２８年よりスタートした。

事業のスタートに当たって超えるべき課題は以下の４点！

1，　法的根拠→各種法律を調査したところ、車を使った期日前投票を違法とする文面は見当たらず、平成２８年に公職選挙法が改正され、第４８条の２には「期日前投票を設ける場合は、…効果的な設置、期日前投票所への交通手段の確保その他の選挙人の投票の便宜のため必要な措置を講ずるものとする。」と明記されたため、実施案を作成して総務省に提出。「設備に不備がなく、投票の秘密保持が保たれれば可能」との返答をもらいClear！

2，　設備→市が所有していたワゴン車を使って車内を改装。お年寄りが寄りかかっても倒れないように強度のある記載台を市内の職人に制作してもらい、プライバシー保護のためのパネルも設置、車いすでも入れるようにスロープも用意してClear！

3，　名簿確認→二重投票の防止のため、受付時に持参の入場整理券で本人確認を行い、その場で本庁職員に電話して投票履歴の有無をシステム上で確認をすることでClear！

4，　風雨等の対策→簡易テントやブルーシートを用意して車外で待つ人達の待機場所を確保してClear！

４つの課題を克服し、実施までに想定ルートの試走や電波の悪いところでは衛星携帯電話をレンタルなど約６か月間の準備期間を経て、移動期日前投票所の開設に至った。

当日は、管理者と立会人を務める選挙管理委員３人と職員２人が乗車して２日間で９か所を巡回する。投票所を開設するより人手がかからず、設備投資もあり初回は３２万円ほどかかったが、その後はガソリン代や人件費を含めて毎回１２万円ほどで経費の削減にもなっている。

巡回の曜日と時間、順番も設置場所ごとに決まっていて、ずっと変えずに続けているので、すっかり定着して問い合わせもない。当日は車が到着する前に来て待っている状態で、大変好評。しかしながら、住人が高齢のため施設に入所したり入院したりで投票する人がいなくなり減らしたところもある。

移動期日前投票所が行われている地域は、投票所が統合される前までは投票率約８０％で、導入直後の平成２８年の参議院選挙では７８％と、投票所がなくなっても高い投票率を維持できたのは移動期日前投票所の成果と言え

る。最近では投票率は下がってきているものの移動期日前投票所の利用率は上昇傾向にあり投票機会の確保には貢献しているものと思われる。

今後の課題としては、今までは台風などの大きな悪天候にあったことがないが、そのような悪天候や事故への対応策、選挙事務の経験者の育成、本部の管理体制、今後高齢化が進むにつれて統合した地域ではない地域からも要望が上がってくると思われるが、どんどん増えると対応が難しい。

浜田市の人口は４万７，６５７人、網走市の人口３万２，０７９人の約１．５倍。面積は浜田市が６９０．６４㎡、網走市が４７０．８４㎢で、こちらも約１．５倍。しかしながら、投票所の数は浜田市が当日投票所６８か所で１か所６１５人、網走市は２８か所で１か所９９５人となっており、浜田市の方が投票所数は約３倍と圧倒的に多い。その分、投開票にかかる人員と時間もかかるため、浜田市は投票時間を２５か所で１時間、４３か所で２時間短縮して行い、開票確定時刻も日にちを跨ぐことなくその日のうちに確定されている。

また、期日前投票も市役所本庁舎と各支所４か所、県立大学のキャンパスで半日、移動期日前投票所で２日間８か所と充実している。網走市では市役所本庁舎とエコーセンターのみだが、東京農大のキャンパスや高校でも開設できれば投票率の向上につながるのではないかと考える。網走の場合、統合による投票機会の確保には当たらないが、若者の投票率の向上や高齢者などの交通弱者の投票機会の確保にはつなげられるのではないか。令和４年の参議院選挙では全国で８８団体が移動期日前投票所を行っており、その中には高校生の投票率向上のために実施したところもあるので、今後網走市でも提案していきたい。

③　伝統芸能・石見神楽の若者への継承について

日　時　：　令和７年３月２５日（火）　２１；００～２１；４０

視察先　：　石見神楽長澤社中

【視察内容】

かつて島根県は「隠岐国」「出雲国」「石見（いわみ）国」に分かれており、県西部に位置する石見地域には、古くから民族芸能として「石見神楽」が受け継がれてきた。その中でも、浜田市は「石見神楽を創り出したまち」として有名で、石見地域には１３０を超える神楽団体があるが、その中の５０以上の団体が浜田市に存在する。中でも、今回視察した長澤社中は創立から１００年以上が経過しており、昨年１２月には、更にその歴史と伝統を今後１００年先に伝えるため「石見神楽長澤社中伝承プロジェクト１００」と銘打って記念事業が行われた。

今回の視察のご縁となった浜田市の川神市議会議員は、伝承プロジェクト１００記念神楽大会の実行委員長を務め、長澤社中の中心的存在である。川神市議のご尽力で、長澤社中の皆様が視察に訪れた私たちのために代表的な演目である「大蛇」を披露してくれた。

「大蛇」は、記紀神話であるスサノオノミコトのヤマタノオロチ（八岐大蛇）退治を物語る演目である。「毎年、八岐大蛇が娘を一人ずつ食べ、最後の娘・稲田姫も狙われている」と嘆き悲しむ老夫婦と稲田姫の話を聞いたスサノオノミコトが、大蛇に毒酒を飲ませて見事に退治する！というストーリー！

神社の境内という狭い空間で、すぐ目の前で、次々と現れる八岐大蛇と格闘するスサノオノミコトの立ち回り、口から火を噴きながら暴れまわる大蛇の迫力と豪快さに圧倒された。何より、お囃子が鳴った途端にそのお囃子のメンバーの若いことに驚き、舞い終わって面を取った時、川神市議以外は全員若者ばかりで、更に驚いた。

浜田市では就学前の子どもから７０歳、８０歳の重鎮までもが継承活動に関わり、それぞれ学業や仕事をしながら練習に励み、奉納や公演を通して地域の大切な宝である石見神楽の継承と発展のために尽くしている。子どもたちにとって石見神楽は憧れの的であり、ヒーローでもあるという。幼いころから「神楽あそび」をはじめ、子ども神楽大会や子ども神楽フェスが開かれ、市内の高校には部活動として石見神楽に取り組む学校もあるそうだ。多くの若者が石見神楽に関わることで地元浜田市に残ることを決断し、また、進学等で一度地元を離れても再びUターンしてくる若者も多いと伺った。川神市議のお宅も親子三代で石見神楽を継承しており、伝統芸能がここまで若者の地元定住に大きな役割を果たしているという事実に大変感動した。

網走市には、ここまで子どもから大人までが関わる伝統芸能は無いのが現状だが、このような若者の地元定着につながる取り組みを模索していきたい。